

YMCA CAMP YOSHIMA VOLUNTEER REPORT



Summer 2013

初めは緊張していた子どもたちとリーダー。写真は共に過ごした仲間と遊ぶ、キャンプ4日目、最後の海遊び。豊かな自然に、ゆったりと流れる雄大な時間と空間が、心を解きほぐしてくれました。



I'm a Partner Camp Summer 2013

Camp Director 松田 康之

多くの方の想いと、ご支援を受けてのパートナーキャンプが、7月28日～8月1日の4泊5日の期間、自然の恵みにあふれる余島を舞台として行われました。

今回のキャンプはYMCAのボランティアリーダーに加え、啓明学院の高校生、三田西陵高校の高校生、ユニセフボランティア、福島大学の学生、と、多様なボランティアが子どもたちと関わりました。

あっという間の5日間でしたが、毎日余島の海を泳ぎ、釣りや様々なアクティビティに挑戦しながら、自然の中で心も身体も解き放たれたキャンプ。

そしてリーダーや仲間と出逢い、心揺さぶられる体験をしたキャンプ。

帰路の新神戸駅ではリーダーとの別れを惜しみ、新幹線の車内は涙をすする子どもたちであふれ、ホーム側に全員が身を寄せていました。

福島では、未だに一日の屋外活動制限が三時間という現実。そんな中で子どもたちは過ごしています。

「過去を変えることはできないし、時間を巻き戻すこともできない。このキャンプも最終日を迎え、初日

に巻き戻すことはできない。だけど未来は私たち一人一人の手の中にあり、未来を変えることはできる。だから一瞬一瞬を大切に、自分にできることを全力でチャレンジすること。子どもも大人も一人一人がチャレンジしていこう。」

このメッセージを子どもたちと分かち合っただけでキャンプを終えました。

キャンプに関わったボランティアにとどまらず、実施計画の段階から募金にご協力くださった方々など、様々な形で本当に多くの方々のお支えがあり、成し遂げられたキャンプでした。

I'm a Partner Campは、2015年度春休みまで、毎年夏と春に継続して実施していく予定です。

これからも福島の子どもたちに、生きていることの喜びと、未来への希望を伝え、分かち合うことのできるキャンプを、みなさんとともに創っていきたく願います。

より多くのPartnerとの出会いに希望をこめて。

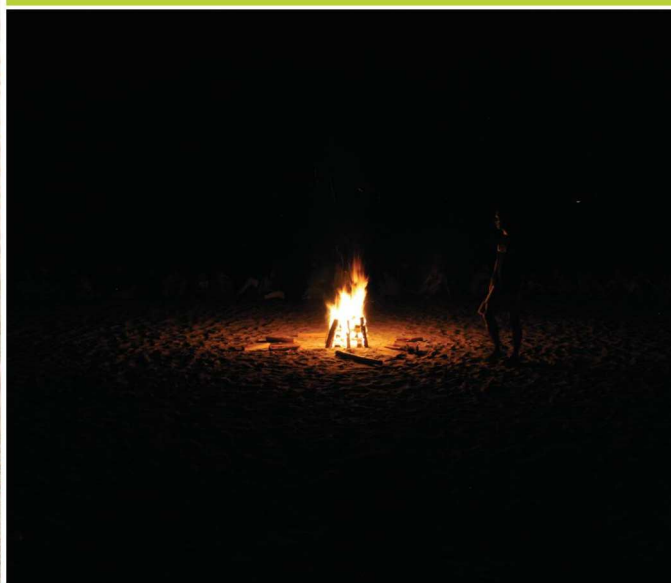


ボランティアとは、

「自分ができる時でいいから、
自分ができることを、
誰か困っている人の為に、
することです。」

だからみんなには、リーダーになって、
また余島に帰ってきて欲しいー。

夕陽会での言葉



“ Michael Row the boat ashore, Hallelujah.” キャンプで出会った「パートナー」

Program Director 阪田 晃一

キャンプで良く歌われる「漕げよマイケル」は、このキャンプのテーマ曲になりました。新たな旅に出るマイケルを、“Hallelujah!”と祝福するこの歌は、子どもたちに何かを伝えているのかもしれない。

キャンプ2日目の夕方、私はこんな話をしました。

「みんなの一番大切な人が『困っている』とすると、その人はどんな人なのだろう？」

「弱い人・・・？」

「そうだね。それは弱い立場に置かれている人だと思う。では、その人は、自分で選んで困っていると思う？」

「ううん。そんなことは無い。きっと何か事情があって・・・。」

「そうだね。だから私たちは、人には優しくしなければいけないんだよ。自分もいつそうなるか分からない。そして、みんなは、今、『困っている』人たちだと思う。このキャンプには、ここにいるリーダー以外に、弱い立場にいる人を助けたい、と思う人がたくさん関わっている。それがボランティアなんだ。自分ができることを、困っている、弱い立場の人たちのためにすること。みんなが大好きなリーダーも、そういうボランティアとして生きる人たちなんだよ。」

食い入るように真剣に、子どもたちは聞き入っていました。夏の蝉時雨の中、落ちる夕陽に哀愁の表情を浮かべながら過ごした、穏やかな、そして真実の一時でした。

最後の夜、カウンスルフアイヤーのかがり火の中で、子どもたちがキャンプの想いを語りました。

終わりに、最後のメッセージを伝えました。

「みんなには強い、優しい人間になって欲しい。今度はリーダーになって、余島に帰ってきて欲しい。私たちは何も恐れない。この両手で、共に未来を創っていこう。」

今回、キャンプに集った仲間は、メンバー40名とボランティアリーダー10名、ディレクター2名でした。

しかし子どもたちは、もっと多くのパートナーに出会いました。キャンプカウンセラーはもとより、150名を超える賛同者の寄附や、企業の協力により、本キャンプを開催することができました。その想いは、確実に福島の子どもたちに伝わっています。泣きながら「帰りたくない」と最後の夜を過ごす子どもたちは、このキャンプで、目には見えない、本当に多くのパートナーと出会ったことでしょう。いつの日か再会できることを夢見て、共に未来に向かって、強く生きてゆきたいと思います。



YMCAでは多くのボランティアが活躍しています。今回も社会人、大学生、高校生のボランティアリーダーが、子どもたちと5日間を過ごしました。みんな、リーダーのことが大好きです。

また会いたい 強く生きて欲しいと思った

プログラムチーフ 石田 詩織
神戸親和女子大学4回生

震災から二年半、福島では今も日中決められた時間しか外で遊ぶことができない子どもたちがたくさんいます。そんな中で行われたキャンプでした。

午前中はカヌー、釣り、アーチェリー等、毎日自分の参加したいプログラムを選び、余島の自然の中で思いっきり楽しみました。自分の釣った魚を料理してもらい、食べることができた子どもたちは

「これ俺が釣った魚！」と、とても嬉しそうでした。午後は楽しみにしていた水泳。飛び込み台から勇気を振り絞り、思いっきりジャンプ！マット渡りや相撲大会など迫力のあるプログラムに積極的に挑戦していました。2日目の夜は、火を囲んでゲームをしたり踊ったりするボンファイヤー。アメリカ版猛獣狩りをみた子どもたちは「おもしろかった！」笑いながらキャビンに帰っていきました。

4日目には、コープこうべ福島のこども保養プロジェクト、コープの組合員さんと夏祭りを開催！自分たちが飯盒で炊いた米を手し、作っていただいたカレーや焼きそばなどたくさんの屋台に囲まれ、とても楽しいお祭りでした。「漕げ

よマイケル」を歌いながら浜に出ると、海に沈む夕日がとてもきれいに見えました。少しの間、波の音と夕日に囲まれながら、キャンプを顧みました。

最後の夜、皆で火を囲んでのカウンシルファイヤー。このキャンプに対する不安だった気持ち、期待していた気持ち、嬉しかったこと、自分の言葉で皆に伝えながらキャンプを振り返りました。

新幹線の中では、帰りたい、また来年も来たいと涙を流しながらのお別れでした。余島で感じたことを忘れずに強く生きて欲しい、そしてまた来年も子どもたちと一緒にキャンプがしたいと強く願います。

Fundraising Volunteer



ファンドレイジングボランティアとして、本キャンプの為に延べ100件を超える寄附者を募り、200万円を超える資金を開発した。

力を集める 繋がった「心と心」

ファンドレイジングボランティア
中山 豊美

「この雨は濡れても大丈夫なんだよね」と言ったそうである。急に大雨となった朝、キャンプ長が「この雨の中、遊ぶのもキャンプなんだよな」と言った時のこと。この言葉に胸がキュンとした。

何か不安と喜びを感じながら余島へと。この日から、キャンプに参加させてもらった。

キャンプ3日目、子どもたちは、元気でリーダーたちと笑顔で楽しく海や砂場で遊ぶ目は輝き、食堂で大声で歌っている姿を見てホッとした。一緒に楽しませてもらった。遠い所に来てくれて、ありがとう。

何かをしたいと思っても、福島の手の届かないところの事だと思っていた。それが余島で繋がりを持つことができるなんて、夢のよ

うでした。YMCAの歴史と最高の島、そして、お一人お一人の気持ちが「心の力」となりました。国ではできないことがすぐに結びつくという素晴らしさを知りました。子どもたちは、元気に目は輝きリーダーたちと笑顔で楽しく、子どもたちといつも笑顔でテンション上がり放しの高校生リーダー、そして、熱い気持ちでプログラムを進めるスタッフ。心と心の織り成す光景は「美しい」という表現一言につきます。この「想い」が一つになった余島キャンプで子どもたちは、自然の中でキャンプを通して成長し、これから頑張ってくれると確信しました。この全てに感謝致します。

人の想いを知り 愛を感じ—
感動と勇気もらえるキャンプ—
これから生きる「力」となる—
ずっと続けることができますよう
I'm a Partner Campの応援をこれからもお願い申し上げます。
力を集めたい！分かち合いたい！

Thank you to All Camper, Staff and Volunteer.

《参加者の声》 ※参加された子ども、保護者の方よりメッセージを頂いております。

- ☆（海で）飛び込みもできたり、休けいの時にいろんな遊びをしたり、みんなと泳いだのがとても楽しかった。
- ☆海水よくなどを毎日やり、フリーチョイスなどで好きなを（遊びを）選べてよかった。
- ☆みんなとなかよく出来た！リーダーとも仲良く出来た！
- ☆私は海に入れなかったけど、リーダーたちがゲームをしてくれたりしてもらって海に入れなくても楽しかったです。
- ☆久しぶりの海でみんなではしゃいだのがすごく楽しかった。
- ◎この度は、貴重な体験をたくさんさせていただき感謝です。お友達やリーダーさんたちとの思い出もできて、こんがり日焼けして元気に帰って参りました。本当にありがとうございました。そしてお世話になりました。
- ◎来年もいきたい！！と話しているので、ぜひ中学生も参加させてください。希望です。
- ◎今までよりも元気な姿になったような気がします。子どもが生き生きと、楽しく過ごす事が出来、とてもありがたくなります。ありがとうございました。福島の子どものために、本当にありがとうございます。感謝しています。6年生までと言わず、今後も続けてもらいたいです。



Partner 2013

本当に多くの出会いがありました。キャンプに集った子どもたちが余島から巣立ち、社会へと飛び立っていきました。私たちはいつまでも"Partner"です。

YMCA CAMP YOSHIMA VOLUNTEER REPORT

I'm a Partner Camp Summer 2013

主催：公益財団法人神戸YMCA
主管：YMCA余島野外活動センター

協力

神戸YMCA東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会
Ladies & Gentlemen よしましよ
NPO 法人ルワンダの教育を考える会
兵庫県ユニセフ協会
生活協同組合コープこうべ
公益財団法人神戸YWCA
公益財団法人日本YMCA同盟
兵庫県立三田西陵高等学校
学校法人啓明学院
社会福祉法人神戸YMCA福祉会
学校法人神戸YMCA学園

協賛

SUNTORY

I'm a Partner Camp Summer 2013は、

コープ「福島の保養プロジェクト」と同日程で開催されました。

福島の子ども保養プロジェクトinよしま

主催：コープこうべ、神戸YMCA、兵庫県ユニセフ協会 共催

日程：2013年7月28日～8月1日

於：神戸YMCA余島野外活動センター

Web：<http://www.kobe.coop.or.jp>

発行元

公益財団法人神戸YMCA
余島野外活動センター

761-4106
香川県小豆郡土庄町字余島

Tel; 0879-62-2241 Fax; 0879-62-2240

Email: yoshima@kobeymca.org

HP: www.kobeymca.org/yoshima/



"I AM AN OWL" PROJECT
CAMP YOSHIMA
KOBE YMCA

Thank you

I'M A
PARTNER
CAMP
SUMMER
2013

賛同者一覧

真っ黒に日焼けした子どもたち。
今も、外で遊べるのは「1日3時間」。
子どもたちは余島の海で、本当に楽しそう
に、そして惜しむように遊んでいました。
帰りの新幹線には、キャンプの思い出に浸
り、リーダーや仲間との別れに、すすり泣く
子どもたちがいました。



まずはじめに、街頭募金など、通りすがりの、お名前も存じ上げない、多くの方々に励ましと募金をいただきました。
こちらにお名前は記載できませんが、お想いを共にしてくださったすべてのパートナーに、感謝を込めて。

I'm a Partner Camp Summer 2013 Partner 一覧

寄附者一覧 ※順不同敬称略

宇佐美 貴史
徳永 京子
切石 嘉代子
池田 正子
前田 孝子
大井 麻由美
芦屋駅前鍼灸院 芝本恵子
芦屋駅前鍼灸院スタッフ一同
洲崎 佳子
北岡 美枝
梶川 陽子
近藤 暎
志手 淳也
三上 英彦
あとろえ むー
西川 加殊美
村上 緑
城戸 ケイコ
大井 慶子
タケウチ ジュンコ
桜井 晨正
西村 公夫
前川 スミ代
近藤 恵美子
小林 敬子
小林 万里子

松本 千里
阪根 千紗子
佐藤 芳江
小西 恵子
重信 光俊
江口 節子
藤井 一義
岡本 博
鈴木 理江子
山崎 昭子
松本 朱里
松井 泰子
小川 淳宏
佐野 のぞみ
宇佐美 淳子
建築工房 藏
稲畑 謙一郎
延廣 整子
上島 達司
樋口 諄一
遠藤 景子
阿部 葉子
安藤 由美子
脇田 なおみ
黒田 望宏
大井 万里

太刀ヶ谷温泉開発(株)
安藤 猪平次
栗林 和子
吉田 美那
渋谷 文子
藤田 史子
宝谷 万寿美
中山 俊和
中村 信子
奥田公認会計事務所
(株) Venere(ベネレ)
大堀 芳美
山本 泰子
田中 元治
杵築 久枝
徳永 京子
前田 孝子
北山 和子
松田 康之
松本 悟
西川 のぶ子
岡本 ゆき糸
新居 利喜子
猿丸 宏子
斧原 周子
原 国子

力久 瑠
呉 叔子
川西 須美
田中 博道
河崎 郁子
古川 博康
大野工務店
小島 和子
加来 良克
三澤 美智子
中山 隆夫
島田 恒
山下 幸雄
松本 敦子
戸川 睦子
渡邊 百合
大澤 佐智子
杉山 茂
鍵富 春枝
阿部 真紀子
若生緑化(株)
古田 玲子
中山 豊美
(以上 よしましよ)

I'm a Partner Camp
2013年7月28日～8月1日 4泊5日



Summer
2013

キャンプ概要

主催：公益財団法人神戸YMCA
於：YMCA余島野外活動センター(香川県小豆郡)
日程：2013年7月28日～8月1日 4泊5日
参加者：40名(福島県内小学3年生～6年生の男女)
参加費：無料 ※全額募金より拠出

行程：利用交通機関
福島駅～東京駅～岡山(新幹線)
岡山駅～岡山港～小豆島土庄港(貸切バス、フェリー)
土庄港～銀波園～余島
※コープこうべ「福島の子ども保養プロジェクト」同日開催

I'm a Partner Camp Summer 2013 Partner 一覧

寄附者一覧 ※順不同敬称略

甲南教会ぶどうの会
都筑 省三
永井 公子
加納 香
成田 知弘
川原 愛子
小路 順一
松村 真紀
宮原 明
藤野 聡樹
中条 直豊
加藤 順一
中尾 和美
小野 昌二
丹家 元陽
工藤 早苗
白井 友博
八代田 千穂
山中 美穂
佐々木 麻衣

岡田 紗也加
長谷川 貴美子
西崎 由莉
富田 優
小脇 さおり
藤原 大輔
上田 修司
山本 加奈子
ロニー アレキサンダー
島田 恒
(以上 個人)
清水 泰人
東谷 敏雄
武田 寿子
嘉納 洋
安行 英文
堀江 裕一
佐野 睦
中尾 英輔

荒木 鉄治
鵜丹谷 剛
安場 広一
白石 幸代
川崎 厚志
横山 政夫
松岡 辰弥
白井 友博
富田 優
宇治田 達
進藤 啓介
浜瀬 真知子
河野 彰
功力 正士
長内 建佑
(以上
神戸ワイズ'メンズ'クラブ'チャリティ'ゴルフ)

震災リーダー会街頭募金
よしましよバザー
近江岸建助氏を偲ぶ会
余島リーダーOBOG会

延べ275件
(2013年8月14日現在)

募金総額
4,078,547円
(2013年7月20日現在)

決算報告

キャンプ活動費(宿泊食費含む)	1,605,552円
交通費(福島～小豆島)	1,630,070円
傷害保険料	48,246円
諸経費	
現地事前説明会等	137,470円
広報・通信費等	178,100円
事務局諸経費	400,000円

合計 **3,999,438円**

Camp Staff

Volunteer Leader

古川 由布子
小野 悠希
岡 ひなた
佐伯 麻衣子
樋口 慧宣 (以上啓明学院)
草野 恭平 (以上兵庫県ユニセフ協会)
鷹津 千佳
原 明日美
森鼻 恵
石田 詩織 (以上神戸YMCA)

Fundraising Volunteer

中山 豊美

Escorting Volunteer

※引率：福島～岡山間

進藤 啓介
柳谷 利起

Director

Management 永井 道子
Program 阪田 晃一

Camp Director

松田 康之

すべての人を一つに

神戸YMCA総主事 水野雄二

7月31日午後の余島・北の浜のベンチ。一日しか参加できなかった私はある男の子と何気ない会話をしていました。海では子どもたちが浮きマットに乗ったり落ちたりして大騒ぎ。「遊びたいんやけどなあ・・・」つまらなそうにつぶやくその子はどうやらお腹をこわして水遊び自粛のようでした。関西弁で話すその子に「どこから来たん？」と訊くと「福島から。」「えっ?!」。あまりの関西弁の流暢さに驚かされた私でした。キャンプ4日目にして神戸のリーダーから覚えた関西言葉は、彼にとってどのような「楽しさ」だったのでしょか。

このキャンプ報告書には関係者から生の感動が綴られています。それほどに貴重なキャンプであったことを、私も福島っ子との短い触

れあいの中から感じ取ることができました。そんなキャンプが皆様の尊いご寄付によって実施されましたことに改めて感謝申し上げます。参加した福島子どもたちに、まだ参加できていない多くの子どもたちに、そして支えてくださった皆様に、神様の豊かな祝福をお祈りします。



imagine